

の戦が、果して此の時に於る戦勝を記せるものなりとすれば（次章参看）、此の戦は後に可汗となりて、唐より保義可汗の徽號を受けたる人の統率したる所にして、北庭地方の城邑も、こゝに至りて又回鶻に回復せられたるものと見ざる可らず。

第六章 保義 (愛登里囉汨沒密施合毗伽) 可汗の時代

元和三年（八〇八年）俱錄毗伽可汗の死するや新可汗繼ぎ、唐は之を冊して保義可汗と爲せり、保義可汗が穆宗即位の翌年なる長慶元年（八二一年）に死したることは、舊唐書本紀・廻紇傳・唐會要・冊府元龜封冊篇及び繼襲篇等の記事の悉く一致する所なり、新唐書回鶻傳には明かに其の年月を示さず、「穆宗立、回鶻又使合達干等來求婚、許之、俄而可汗死」と見ゆるのみなれど、其の「俄而可汗死」と曰ふものは、又長慶元年に相當するものと見ざる可らず。^{〔一三四〕}

牟羽可汗の後は歴代の回鶻可汗は唐を侵さず、和平の間に利を貪る態度に出でしこと既に上に述べたるが如し、然るに保義可汗の時に至りては、稍々其の態度を改め、天親可汗（頓莫賀達干）以來絶えたりし唐の公主の降嫁を請ひ、又兵を率ゐて唐の北邊に迫れり、即ち新唐書回鶻傳によれば

憲宗使宗正卿李孝誠、冊拜愛登里囉汨〔沒〕蜜施合毗伽保義可汗、閱三歲使者再朝、遣伊難珠、再請昏、未報、可汗以三千騎至鵬鶻泉、於是振武以兵屯黑山、治天德城、備虜

と記せり、此の回鶻の南下の事件は舊唐書廻紇傳及び新唐書殷侗傳・通鑑等に據れば元和八年の^{〔一三五〕}ことにして、舊唐